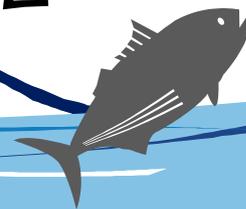


令和元年度 焼津市自治基本条例

まちづくり市民集会・大ワールドカフェの報告



令和2年1月11日(土)実施

焼津市自治基本条例まちづくり市民集会 実行委員会

実行委員会からの報告 ～6回目の「まちづくり市民集会」～

令和2年1月11日(土)に焼津文化会館・小ホールにて、6回目となる「まちづくり市民集会」を開催しました。一般参加の市民や学生をはじめ、自治会関係の方、市長、市議会議員、市職員等、10代から80代の多様な世代・立場の170名を超える多くの方々にご参加いただくことができました。第5回の市民集会まで年々参加者が増え、今回も前回と同等の参加者数となっており、少しずつまちづくり市民集会の認知度が高まっていると感じております。

改めまして、まちづくり市民集会に関わっていただいた全ての皆様にお礼を申し上げます。

実行委員会では、市民集会の成果を今後のまちづくりに活かしていけるよう、市民・議会・行政の皆さんと共有するための振り返りの話し合いを行い、本報告にまとめました。

●テーマ「輝け 新元気世代！～みんなで支え合うまちづくり～」

第1回の市民集会は、平成27年3月に「焼津市の未来・わたしたちの暮らしと自治基本条例」をテーマに開催しました。その時の話し合いで、まちづくりには「人とのつながり」や「お互いを知る」ことが大切だということを再認識し、第2回は「『縁』とつながりで育む「住み続けたい焼津」」をテーマとしました。回を重ねるごとに、まちづくりに対する想いやアイデアなどが参加者の皆さんからたくさん出てくるようになりました。テーマを決める際は、「人とのつながり」を念頭に置きつつ、その時期に焼津で一番ホットなテーマを設定しています。

第6回のテーマを決めるにあたり、焼津市独自の「新元気世代」をテーマにしたいという提案がありました。また、新元気世代だけでなく若い世代と世代間の支え合いをすることで、新元気世代がいきいきと活躍できることから、「輝く新元気世代」と「みんなで支え合うまちづくり」を組み合わせ、これをテーマにすることとしました。前回のテーマである「人生100年時代」を見据え、さらに一歩踏み込んだ内容としました。



和やかな雰囲気 笑顔がたくさん見られました

- 「いろいろな世代がまちづくりに参加するために、あなたができること、みんなでできることは何か？」について、たくさんの提案・ヒントが出ました。

24のグループからたくさんの素晴らしい提案がありました。それらの提案を「あらゆる世代が支え合い“つながる”ことで、新元気世代が輝く「オールやいづ」のまちづくり」とまとめました。

それぞれがまちづくりに参加するには、つなぐ場所や人、ツールなど“つながる仕組み”が必要になります。子どもや若者から新元気世代までを巻き込んで、それぞれをつなげていく。皆さんがつながり、支え合うことで、誰もが住み続けたいまちをつくっていくことになるのです（4ページに提案のまとめ、5ページ以降に全グループの「発表内容シート」のまとめ）。



どのグループも話し合いが盛り上がっていました



年齢や立場に関係なく熱く楽しく話し合いました

- 2つの話題提供が好評でした

1つ目の話題提供は、「焼津GRユナイテッド」。焼津市を拠点とする3人制バスケットボールのプロチームで、焼津をPRするための幅広い世代に向けた活動をしています。地域の学校や企業との連携や幅広い世代を巻き込んだ地域とのつながりづくりのお話で、地域にスポーツ文化を育む仕組みなどは、新たな視点からの取り組みで、参加者の関心を集めました。

2つ目は、「三右衛門新田中老会」。地域のお祭りやイベントを通じて、子どもから年配者までがつながり、活躍できるまちづくりが行われています。住みやすいまちにするための多世代が参加しやすい工夫など、地域としての新元気世代との関わり方や世代間をつなぐヒントとなるお話でした。



話題提供① 焼津GRユナイテッド



話題提供② 三右衛門新田中老会

●高校生・専門学生・大学生の活躍

今回も、高校生・専門学生・大学生がたくさん参加してくれました。新元気世代はまだまだ先のことですが、いろいろな世代がまちづくりに参加するために、若い世代として何ができるのかを大人に交じて真剣に考えてくれました。学生たちはみんなしっかりと自分の意見を持ち、堂々と発言できるので、同じテーブルの大人たちは感心したり、刺激を受けたり、交流を楽しんでいました。

発表の場面では、グループの代表として発言する学生が多く、しっかりとグループの意見をまとめて発表してくれるので、会場全体が大いに盛り上がりました。発表をしない学生にも、発表を仕切ってくださったアドバイザーの松下啓一先生（相模女子大学夢をかなえるセンターエグゼクティブアドバイザー）が声をかけ、話し合いの感想などを求めましたが、こちらも堂々とした発言でした。



●新しいものが生まれる場に

10代から80代の様々な立場の参加者が同じテーブルにつき、同じテーマで意見を交わしました。まちづくり市民集会は、いろいろな意見を聞くことで参加者それぞれに“気づき”や“交流”が生まれることを目的にしています。

参加者からは、「自分のできる小さなことから始めていきたい」「自分たちの活動に取り入れていきたいことがあった」「自ら情報発信していきたい」「地域の行事に参加し、活性化していく」など、一歩を踏み出す前向きな感想がありました。また、新しいつながりもできているようでした。

今後も“気づき”と“交流”が生まれる場づくりを工夫して作っていきたいと思います。

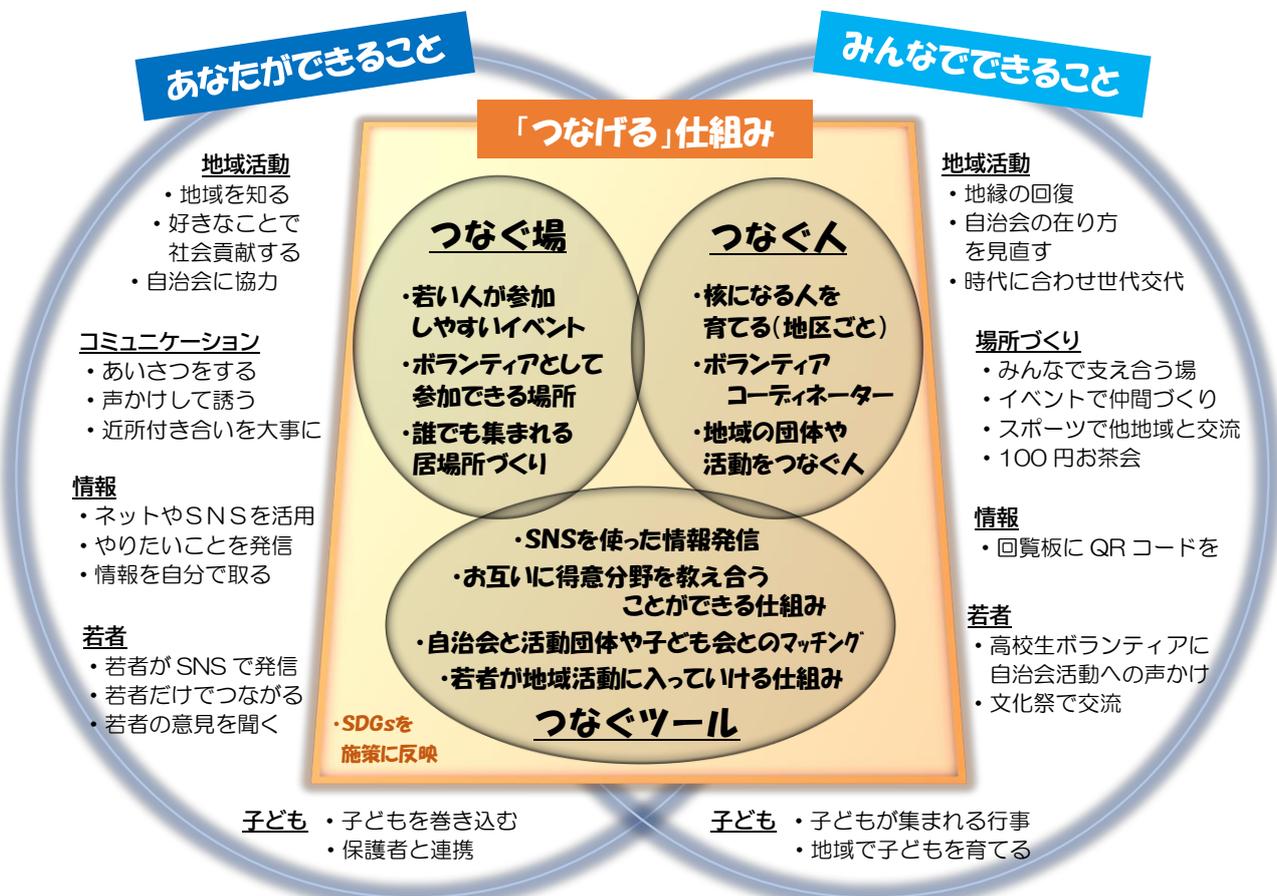
●今後も「まちづくり市民集会」へのさらなるご参加・ご支援をお願いします。

アドバイザーの松下啓一先生は、この市民集会自体が全国的にも稀少な焼津のまちづくりの資源だとおっしゃっています。市民手づくりの「まちづくり市民集会」が年々発展しながら継続していけるよう、市民、議会、行政の皆様のより積極的なご参加とご支援を引き続きよろしくお願いいたします。

「輝け 新元気世代！ ～みんなで支え合うまちづくり～」

－ 第6回まちづくり市民集会のまとめ －

あらゆる世代が支え合い“つながる”ことで、 新元気世代が輝く「オールやいづ」のまちづくり



各グループからの意見のまとめ

あなたができること

- ・自慢できる場所など、自分の地域を好きになる
- ・楽しいことを社会貢献につなげるなど楽しく活動し、活動の良いイメージを伝える
- ・資源ゴミなど、小さなことからでも自治会に協力し、自ら地域を守る意識を
- ・近所との結びつき、人とのつながりを大事にし、一緒に行こうと声かけする
- ・見守り隊、発達障害の支援など子育てママを支える活動で顔を合わせる機会をもつ
- ・活動に誰でも参加できるように（若者も参加、男性も参加、新しく来た人を受け入れる）
- ・人の輪の中に飛び込む→輪を広げる
- ・ネットや SNS で高校生が発信し、使い方をアドバイス
- ・健康第一で参加する時間は自分でつくる
- ・スポーツ、音楽、食でつながる

みんなでできること

- ・新旧世代のバランスを考えた世代交代により伝統などの大切なものは続ける
- ・世代間ギャップを解決し交流しやすくするなど、行事に参加できる下地づくり
- ・中老会と子ども会が連動するなど、お祭りで多世代の交流を（屋台を増やし若者を増加）
- ・地域にふれあいの場を増やすなど、「心の豊かさ」をベースにふれあい重視のプログラム
- ・子どものいない世帯が地域に入りやすいような楽しく入りやすい組織に
- ・学生の勉強会として部活の時間を利用して経験の交流会に
- ・空家リノベーション（お店、学童など子どもたちの居場所に）
- ・学生によるまちづくりプレゼンテーションやデイサービスの活動報告会などの開催
- ・環境問題の取組から地域活動にシフトできる仕組み

🌀 発表内容シート

「いろいろな世代がまちづくりに参加するために

“あなたができること” “みんなのできること”」

1 テーブル

多世代がつながるコンテンツ必要（将棋、囲碁、スマホなど）

世代間交流 部活などで忙しい中高生、小学生をターゲットに

もともとステキな活動・趣味（将棋、囲碁）がある(^_^)

スキルの物々交換会の開催

年配の方は囲碁や将棋を

子どもはスマホの使い方（自撮りなど）

元々ある
ものを

⇒キーマン（核となる人が必要）みんなでドンドン巻き込んでいくコト！

つないでまとめる仕組みが必要

中高生は部活を月1休みにする or 部活でやっていることを地域活動に活かす

好きなことをやったらそれがまちづくりになる!!

2 テーブル

- 1 まずは参加してみる、やってみる、楽しそうにやる
- 2 知り合いに声かけをして良いイメージを伝える
- 3 時代に合わせてやり方を変える、変化を受け入れる

3 テーブル

焼津 = 魚ではなく、色々なものに目を向ける！

若い人の声を聴く！

「複合」で考える、一つの魅力ではダメ

素朴な人が人を引きつける

4 テーブル

規模に関係なく行動する。



発信して、迎え入れる



健康で本人が楽しんで活動する。

自分で作る。笑顔でいられるような

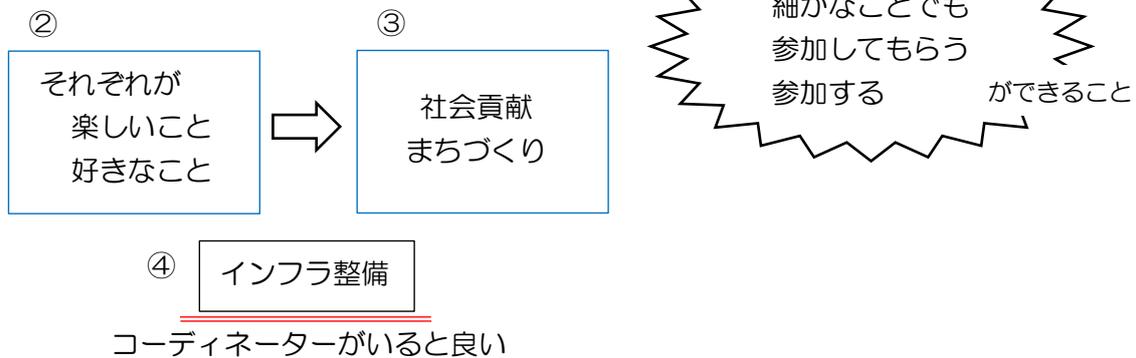
5 テーブル

- 1 地元地域のイベントに子どもを巻き込んで活性化していく
- 2 引っ越して来た人に声掛けする。
- 3 自分たち（高校生くらいの若者）が参加できる行事を増やしてほしい

6 テーブル

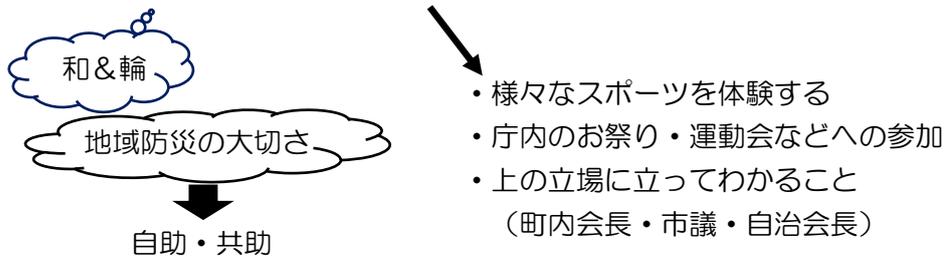
《世代によって役割分担》

- ・若者 → SNS などの広報
- ・大人 → 今までの経験、土台づくり



7 テーブル

- 地域活性化するにはまずはキッカケ作り。
- 子どもからお年寄りまで楽しんで地域活動に参加する。



8 テーブル

あいさつ

9 テーブル

子ども = 保護者との連携

お祭りには誰でも来れる 来てほしい
子どもの役割

市外から見ると
焼津の人はやさしい！

楽しい前の苦しさにストップしてしまっている ⇒ 楽しい成功体験を！

参加しないでやめてしまう

新しいものをつくるときは何かを削る負担減

世代交代しても伝統・大切なものは続ける

顔見知りだと会合に来れない理由もわかる

→ せめない・また来いよ

気持ち大事

来ようとする
受け止める

共生

ルール×

あいまいさ◎

10 テーブル

強制的なボランティアは続かない

↓

自分のために楽しみながらできる活動が必要

↓

そのためには1日だけでも参加可能のようにはじめるときの間口を広くするようPRする

↓

ネット、具体的楽しさをアピールする

11 テーブル

集まれる場所が必要

→

ちょびちょびする 世話人がほしい。

人材がほしい。

口コミ、研修会

→

情報が足りない

縁が生まれない

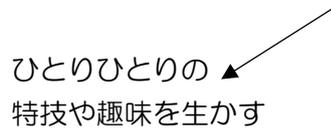
12 テーブル

楽しんでやっている姿をみせる

まわりが「いいね！」

年代間のかきねをとるには… そこにアイデアが必要

ひとりひとりの
特技や趣味を生かす



13 テーブル

- 自分が知っている情報を伝えること、情報を集めること
- 趣味を通して人作り、自治会を通し地域の役に立つ
- 焼津大好きを伝えること、みがけば光るものを伝えたい
- ひとごとにならないようにしたい、いろんなことを勉強していきたい

自分のこととして!!

- 若い世代に文化産業の技法を伝える、夢を語る
- 自分も持っているもの、できることをまわりにアピールする。

14 テーブル

「まちづくり」という言葉にかかわらず、「自分がやりたいこと」をやる

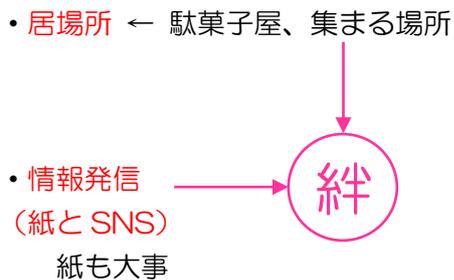
高校生がまち自体に関わるのが少ないと思うので、高校から積極的にまちの良いところなどをアピールしていきたい。

15 テーブル

- **居場所** ← 駄菓子屋、集まる場所

- **情報発信**
(紙とSNS)
紙も大事

絆



16 テーブル

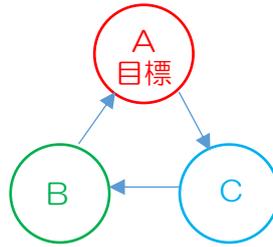
参加できるよう声掛けをする

回覧物等で地元行事の参加を通知しているが、アパートで地元行事の回覧が廻らない状況にあるので、自治会役員が声掛けをして参加をしてもらっている。

小学生は、防災訓練を参加証明書で参加をもらっているのですが、他の行事についても、参加証明書で参加してもらうようにすれば良いのではないかと。

17 テーブル

- C あなたができること
- B みんなができること
- A 多世代の参加
=目標



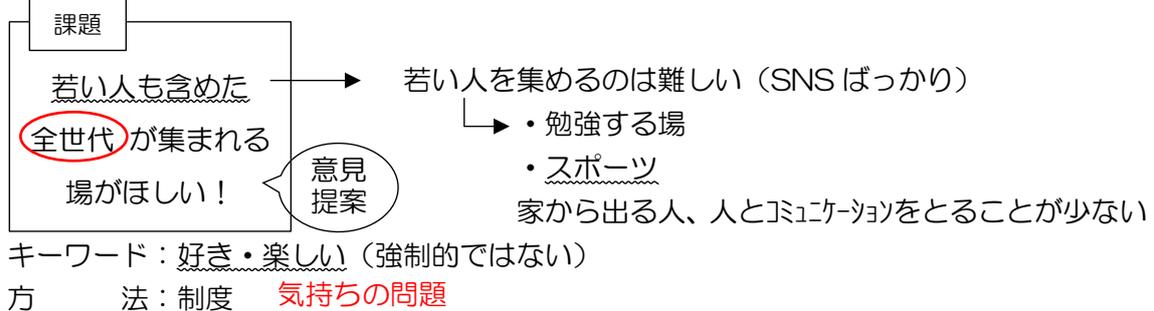
18 テーブル

- ・家族はお茶がさめない距離
- ・子どもはつながりのパイプ役
- ・地域総参加の場づくり

19 テーブル

- 「まず自分が参加する」
- 「楽しいイベントを企画」
- 「何事も続ける！」

20 テーブル



21 テーブル

- ・ボランティア活動 (学校を巻き込む)
- ・情報発信の仕方 (広報紙など)

22 テーブル

- ・地域の活動は子どもの教育としても必要であるため、外国人にも若い人にも声を掛けて参加してもらうことが一番
- ・地域の行事の報告を回覧版だけでなく、QR コードを載せて YouTube に投稿し、若い人を取り込んでいる (コメントできる。コンテンツを制限することもある)
- ・地域の横のつながりを作り地域のグループ間をつなぎ全市に広げる
いずれの団体も横のつながりをほっている

23 テーブル

- 最初の一步は、この会場参加者が企画
- 今ある会をリニューアル（マンネリ×）
- 全世代を巻き込めるようなイベントの企画

〔 釣り大会
もちつき大会 〕

24 テーブル

居場所づくり → 個人商店の中でもコミュニケーションできるもの
公民館、公会堂

↳ 100円でお茶会

- 若い人にも魅力のあるイベント → 気持ちが大事
- 自分にプラスになるものが必要
- 知る機会が少ない、インターネットを使わない人にもわかるようにしてほしい
- 防災も隣の人が見えないと協力できない
- 好きなこと、楽しいことがやりがいにつながり継続できる
- みんなが参画していき、お客さんにならない工夫

世代をこえてまた若い人にも魅力のあるイベントがあるらしいネ

近隣の人と関わらないと防災面でもいけない